

5. シンポジウム「日本最古の牧、 四條畷の牧景観に迫る」の開催

京都府立大学文学部考古学研究室

1. はじめに

京都府立大学文学部では、日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）「馬具生産・流通構造解明を通じた日本古墳時代・朝鮮三国時代の馬匹生産体制の復元」（課題番号 18K01083、研究代表：諫早直人）の成果報告書として、2023 年に『牧の景観考古学 古墳時代初期馬匹生産とその周辺』を刊行した（諫早編 2023）。本書は、古墳時代中期（5 世紀頃）の日本列島に大陸から本格的にもたらされた家畜馬がどのような場所でどのように飼われていたのかについて、大阪府四條畷市葦屋北遺跡周辺の考古学的成果を改めて吟味しつつ、東アジア規模で比較検討をおこない、古墳時代初期牧景観の復元を試みたもので、2024 年 5 月に日本高麗浪漫学会の高麗澄雄記念第 6 回渡来文化研究奨励賞を受賞した。本シンポジウムはその受賞を記念したもので、京都府立大学文学部歴史学科と四條畷市教育委員会、四條畷市立歴史民俗資料館、さらには主たる執筆メンバーの所属する古代の馬研究会との共催で、2025 年 1 月 25 日（土）に地元の四條畷市市民総合センターで開催した。以下、シンポジウムの概要と、準備や実施にあたって京都府立大学文学部考古学研究室の学生がおこなった取り組みについて報告する。

なお、当日の参加学生は山内愛弓、横白彩江（以上博士前期課程）、石川達葵、岡崎壮太、越川輝（以上 4 回生）、栗田晋吾、鮫島聖斗、多田一郎、和田佳織（以上 3 回生）、角南博紀（2 回生）である。

（諫早直人）

2. 当日の概要

まずはシンポジウムの概要について記す。講演題目ならびに登壇者は以下の通りである。

13：00 開会あいさつ 藤岡靖幸（四條畷市教育委員会社会教育部長）

13：10 講演 1 「葦屋北遺跡の調査を振り返る」 宮崎泰史（元大阪府教育委員会）

13：40 講演 2 「河内の牧と渡来人」 諫早直人（京都府立大学）

14：20 講演 3 「ウマ遺存体からみた河内湖北岸の牧」 丸山真史（東海大学）

14：50 講演 4 「遺跡立地からみた河内湖北岸の牧」 實盛良彦（四條畷市教育委員会）

15：20 講演 5 「5 世紀の王権と河内湖北岸」 菱田哲郎（京都府立大学）

16：00 ディスカッション〈司会：野島稔（四條畷市立歴史民俗資料館）〉

16：50 閉会あいさつ 青柳泰介（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）



写真1 会場の風景



写真2 イラスト解説の風景

講演1では宮崎泰史氏が多数の馬具や馬の埋葬土坑が検出された菰屋北遺跡の発掘成果や当時のエピソードについて、講演2では諫早直人氏が四條畷市域と朝鮮半島の馬関連考古資料からみえる四條畷の牧の起源について講演された（写真1）。小休憩を挟み、講演3では丸山真史氏が馬骨や馬歯を対象とした理化学的分析よりみえる四條畷の牧の特性について、講演4では實盛良彦氏が馬骨・馬歯の出土地点や遺跡の分布状況から想定される牧の範囲、牧を管轄していた集団について発表された。その後、講演5では菱田哲郎氏が文献の記述も踏まえて5世紀頃の河内湖北岸の土地利用とヤマト王権の関係について講演された。

ディスカッションでは四條畷市立歴史民俗資料館の野島稔氏を司会に迎えて、登壇者の他、『牧の景観考古学』の執筆に携わった関係者の方々も交えて議論がおこなわれた。

なお講演開始前や各講演の間に設けた休憩中には、後述するように会場内で佐野喜美氏と早川和子氏のイラスト解説もおこなわれた。解説を担当したのは京都府立大学考古学研究室の3回生であり、地域住民や文化財等関係者の方々と活発に意見を交流する様子が見受けられた（写真2）。シンポジウムはハガキとフォームによる事前申し込み制であったが、定員の100人を超過する約180名の参加申込があったとのことである。当日の会場も満席となり、盛況のうちに幕を閉じた。

（岡崎壮太）

3. ポスター・チラシの制作秘話

本シンポジウムの開催にあたり、ポスター・チラシ制作を筆者ら学生がおこなった。四條畷市からのリクエストは『牧の景観考古学』の口絵となっている早川和子氏、佐野喜美氏のイラストを使用することであった。両氏のイラストはそれぞれの作風で牧景観を描いており、安易に組み合わせると本来の良さを損なう恐れがあった。両氏の世界観や雰囲気尊重しながら組み合わせるため、前者のイラストを在来馬のシルエットに切り抜く工夫を凝らした。

そして完成したのが図1である。デザインの意図やイラストの組み合わせ方は地元出身の岡崎壮太と相談し、四條畷市に馴染み深い生駒山地と牧の位置関係がわかりやすく、かつ現存しない河内湖のイメージが湧くように意図した。在来馬のシルエットには生駒山麓の牧集落の全体像を、背景には原画を若干ぼかして人と馬との営みの様子を示した。このポスター・チラシはデザインだけではなく、シンポジウムに関する情報を過不足なく、わかりやすく人に伝えるためにフォントの統一やフォントサイズ、文章内容などをこだわった。今まで感覚でおこなうことの多かったところをデザインの参考書を片手に試行錯誤して、より良いものを作ろうと

The poster features a large, stylized map of Japan in the background. A central, irregularly shaped area is filled with a detailed illustration of a traditional Japanese pastoral scene. This scene depicts a river flowing through a lush green landscape with mountains in the distance. In the foreground, there are several traditional Japanese buildings, including a large stable or barn where horses are being tended to. People are shown engaged in various activities: some are milking cows, others are working with horses, and some are carrying baskets. The overall style is reminiscent of traditional Japanese ink wash paintings but with a more vibrant, colorful palette.

シンポジウム 日本最古の牧、 四條畷の牧景観に迫る

2025 年 1 月 25 日 (土)
四條畷市市民総合センター展示ホール
スケジュール

**参加無料
定員 100 名**
応募多数の場合は抽選

12:00 開場
13:00 開会あいさつ
13:10 宮崎泰史 (元大阪府教育委員会) 「葦屋北遺跡の調査を振り返る」
13:40 諫早直人 (京都府立大学) 「河内の牧と渡来人」
14:10 休憩
14:20 丸山真史 (東海大学) 「ウマ遺存体からみた河内湖北岸の牧」
14:50 實盛良彦 (四條畷市教育委員会) 「遺跡立地からみた河内湖北岸の牧」
15:20 菱田哲郎 (京都府立大学) 「5 世紀の王権と河内湖北岸」
15:50 休憩
16:00 ディスカッション (司会: 野島稔 (四條畷市立歴史民俗資料館))
16:50 閉会あいさつ

申し込み方法
右の申し込みフォームもしくはハガキからお申し込みください。
ハガキの場合は往復ハガキに①住所②氏名③電話番号 (お持ちの方は携帯電話の番号) 返信用にも④住所⑤氏名を記入し、申し込み先までお送りください。
【申込期間】2024 年 12 月 13 日 (金) = 必着 = ※往復ハガキ 1 枚につき 1 名まで
共催: 四條畷市教育委員会 / 四條畷市立歴史民俗資料館 / 京都府立大学文学部歴史学科 / 古代の馬研究会 協力: 高麗 1300 / 日本高麗後援会 / 六一書房
イラスト: 早川和子 / 佐野喜美 (『牧の家観考古学』より転載)

申し込み・問い合わせ先
四條畷市教育委員会文化財課
「四條畷の牧シンポジウム」担当
〒575-8501 四條畷市中野本町 1-1
TEL: 072-877-2121
FAX: 072-877-8300

申し込みフォーム
QRコード

市民総合センター

図1 「日本最古の牧、四條畷の牧景観に迫る」ポスター・チラシ (山内愛弓・岡崎壮太作成)

心がけた。その意味で今回のポスター・チラシ作成は筆者にとっても重要な転機となるものであり、ポスター・チラシが本シンポジウムに貢献できたのであれば本望である。（山内愛弓）

4. 事前見学・イラスト解説

シンポジウムに先立ち、2024年10月9日に四條畷市教育委員会の實盛良彦氏の案内のもと、四條畷市内の馬飼関係遺跡をめぐる機会を得た（写真3）。初めに四條畷市歴史民俗資



写真3 事前見学の様子

料館にて特別展「井戸をのぞいてみれば—考古学から見た井戸と人のかかわりとまつり—」を見学した後、墓ノ堂古墳、奈良井遺跡、鎌田遺跡、部屋北遺跡、讃良群条里遺跡など本シンポジウムの舞台となる遺跡を歩いて回った。展示や遺跡の地形や立地を確認しながら解説を聞いたことにより、古墳時代最古の牧が営まれた当時の様子を想像することができた。

シンポジウム当日は、『牧の景観考古学』の口絵に使われた佐野喜美氏の「さらら馬飼の里」と早川和子氏の「晩冬の讃良の牧」をA0サイズで、早川氏の「初夏の部屋北遺跡」をA1サイズで印刷して会場内に掲示し、3回生が中心となってイラスト解説をおこなった。イラスト解説を担当するにあたり事前準備として、『牧の景観考古学』や『四條畷市史』を読み込み、各遺跡から出土した遺物や遺構、当時の環境などの知識を得た。またイラストがどの遺跡の、どんな場面を描いているのかなどについて、諫早氏と早川氏がやり取りした制作時のメモをもとにイメージを膨らませた。当日も会場準備の際に、佐野氏よりイラストに込めた思いを直接聞くことができた。当日は地元住民や文化財関係者の方々、学生など多くの方にイラストを見てもらうことができた。解説を担当した学生が教えてもらうことも多く、四條畷の牧についてだけではなく他の地域や前後の時代とのつながりを考えるきっかけとなった。（和田佳織）

5. おわりに

大学にいると科研費などのプロジェクトで進める調査研究の一部を学生に手伝ってもらうことは多くあるが、学生一人一人にその意義が伝わっているか心もとないことが多く、プロジェクトが終わると改めてそれを振り返る余裕もなかなかないのが実状である。もしかすると、研究で明らかになったことを地域の方々に直接伝えるという大義名分のもとに、コロナ禍に府大の研究室で断続的に進めたこのプロジェクトの成果を、学生たちが肌で感じられたことこそが本シンポジウムの最大の収穫かもしれない。このような貴重な機会を設けていただいた四條畷市教育委員会、四條畷市立歴史民俗資料館の皆様に改めて感謝したい。（諫早）

参考文献

- 諫早直人（編）2023『牧の景観考古学 古墳時代初期馬匹生産とその周辺』京都府立大学文学部
 四條畷市教育委員会（編）2025『シンポジウム 日本最古の牧、四條畷の牧景観に迫る 資料集』四條畷市教育委員会・四條畷市立歴史民俗資料館・京都府立大学文学部歴史学科・古代の馬研究会

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
